

## 術後急速な病状悪化を辿った G-CSF 産生胃癌の 1 例

かわ かみ こう き<sup>1)</sup> たに うら たか ひと かじ しゅん すけ<sup>1)</sup>  
 川 上 晃 樹<sup>1)</sup> 谷 浦 隆 仁<sup>2)</sup> 梶 俊 介<sup>1)</sup>  
 すぎ もと しん いち<sup>1)</sup> さ と う よし とし<sup>1)</sup>  
 杉 本 真 一<sup>1)</sup> 佐 藤 仁 俊<sup>1)</sup>

キーワード：Granulocyte-colony stimulating factor (G-CSF), 胃癌

## 要 旨

症例は69歳の男性。黒色便と労作時の呼吸困難を主訴に近医を受診し、上部消化管内視鏡検査で胃体中部大彎に3型腫瘍を認め、精査加療目的に当院を受診した。術前補助化学療法中に、脳梗塞を発症し、抗凝固療法を要したが、腫瘍出血による貧血コントロール不良であり、手術療法を施行した。術中所見で横行結腸に一部浸潤があったため、胃全摘術、脾臓摘出術、横行結腸部分切除術を施行した (ypT4bN1M0 Stage III B)。G-CSF 染色陽性を伴う低分化型腺癌であり、G-CSF 産生胃癌と診断した。術後、造影 CT で肝転移を認め、その後急速な病状悪化により、術後60日目に永眠した。術後急速な病状悪化を辿った G-CSF 産生胃癌の 1 例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

## 緒 言

Granulocyte-colony stimulating factor (以下、G-CSF) 産生腫瘍は明らかな感染徴候がないにも関わらず、腫瘍が産生する G-CSF により白血球が異常高値を呈することが知られている。今回、われわれは術後急速な病状悪化を辿った G-CSF 産生胃癌の 1 例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

患者：69歳，男性。

主訴：黒色便，労作時呼吸困難

既往歴：アルコール依存症

家族歴：特記すべきことなし

現病歴：1カ月前から黒色便と労作時の呼吸困難を自覚し、近医を受診した。血液検査で高度の貧血を認めたため、上部消化管内視鏡検査を施行したところ、胃体中部大彎に3型腫瘍を認め、生検で低分化腺癌が検出された。CT 検査では遠隔転移を認めず、精査・加療目的に当科へ紹介され受診した。

入院時現症：身長 171 cm，体重 58 kg，体温 37.1 °C，血圧 125/85 mmHg，脈拍 65回/分。眼瞼結膜は蒼白していた。腹部は平坦・軟で、心窩部に

Koki KAWAKAMI et al.

1) 松江赤十字病院外科

2) 島根大学医学部附属病院消化器・総合外科

連絡先：〒690-0886 島根県松江市母衣町200番地

松江赤十字病院外科